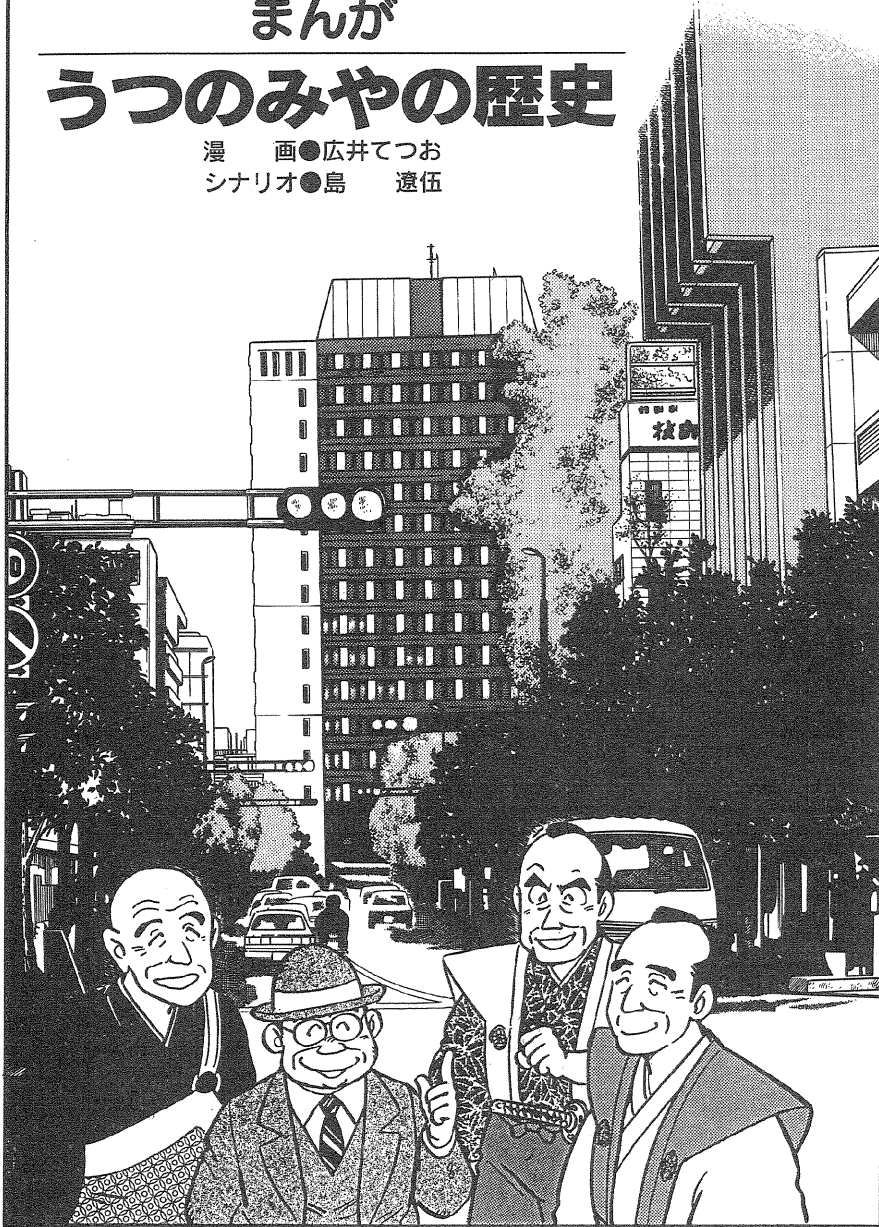


まんが

# うつのみやの歴史

漫 画●広井てつお  
シナリオ●島 遼伍



## 発刊によせて

宇都宮市長 増山道保

私たちの郷土宇都宮は、古くは二荒の門前町として、また、城下町、宿場町として栄えてまいりました。明治二九（一八九六）年四月一日に市制を施行し、今年、市制一〇〇周年を迎え、また、全国に先駆けて、中核市として新たな第一歩を踏み出しました。

この記念すべき年に、市民の皆様にもふるさと宇都宮の歴史を親しみやすく理解していただくため『まんが うつのみやの歴史』を発刊いたしました。

戦災や自然災害など多くの困難を乗り越えながら、着実に成長発展を遂げてきた宇都宮の歴史について、蒲生君平、宇都宮蓮生、本多正純、川上澄生という本市にゆかりの深い四人の偉人が、分かりやすく皆様をご案内いたします。

たくさんの方の市民の皆様にご愛読いただき、私たちのまち宇都宮が歩んで来た歴史に思いをめぐらすとともに、二一世紀への新たな期待と夢を育んでいただければ幸いです。

平成八年四月

# もくじ

発行によせて 宇都宮市長 増山道保

プロローグ 6

第一章・古代 13

◆根古谷台遺跡の時代

◆宇都宮の古墳文化

◆東山道と律令制

◆水道山の瓦窯

◆大谷の磨崖仏

第二章・中世 45

◆宇都宮氏の下野進出(宗円伝説)

◆宇都宮二荒山神社

◆蓮生と宇都宮歌壇

◆元寇と宇都宮氏の栄光

◆宇都宮弘安式条

◆乱世の宇都宮氏

◆宇都宮氏の没落

第三章・近世 101

◆「関ヶ原の戦い」と宇都宮

◆蒲生・奥平時代

◆本多正純の宇都宮大改造

◆頻繁な城主の交代

◆連続する災害と柵摺騒動

◆幕末の宇都宮藩政

〈坂下門外の変／山陵修補／天狗党事件〉

第四章・近代 165

◆戊辰戦争

◆二荒山神社社格問題と県庁移転

◆教育・産業の発達と一四師団の設置

◆大正期の都市づくり

◆戦時の宇都宮と大空襲

◆宇都宮の復興と発展

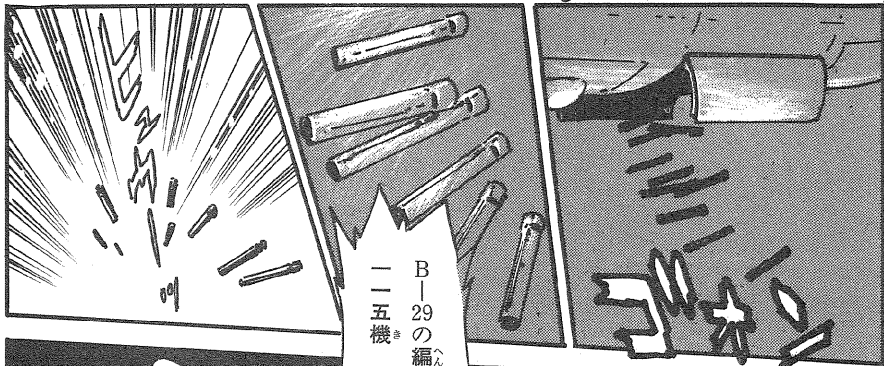
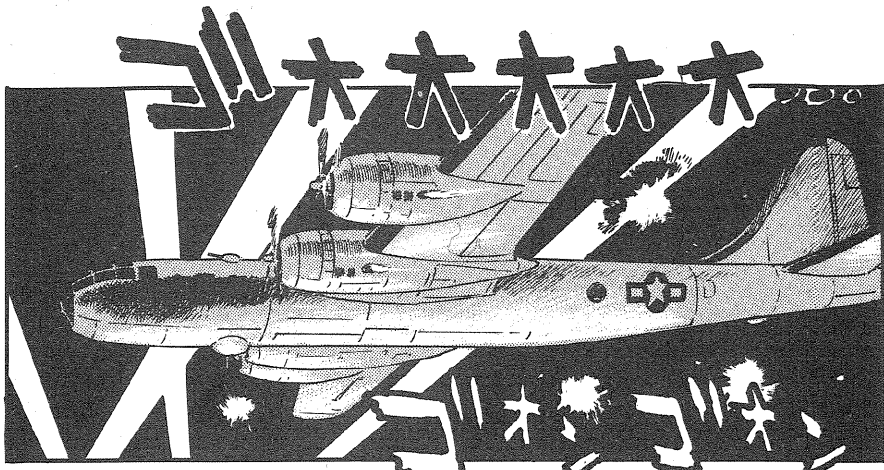
資料編

年表 211

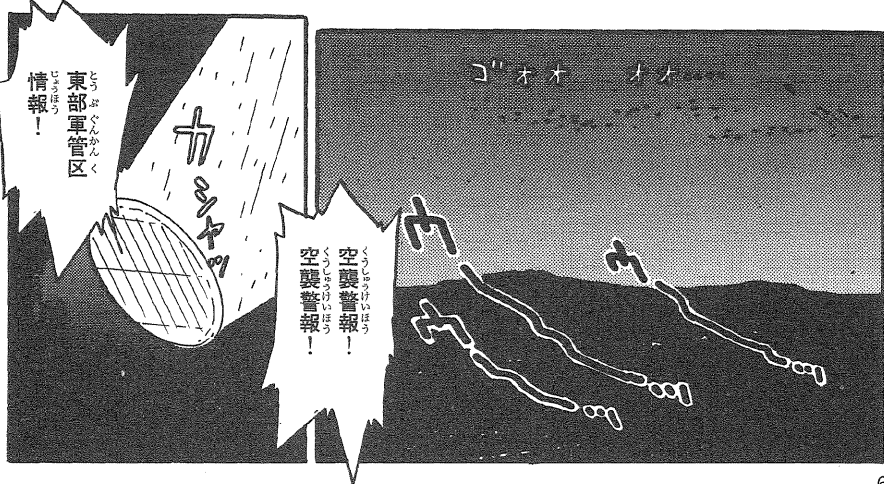
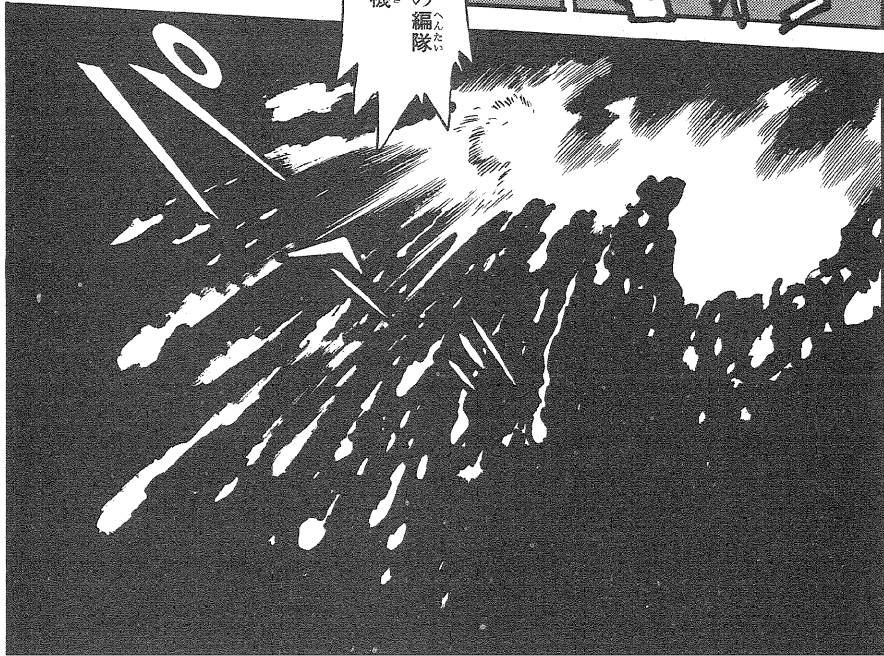
市勢要覧 218

漫画家・シナリオライター紹介

監修者紹介



B-29の編隊  
一二五機







戦争は  
いつの世も悲惨な  
ものじゃ……  
殺人と破壊を  
もたらす



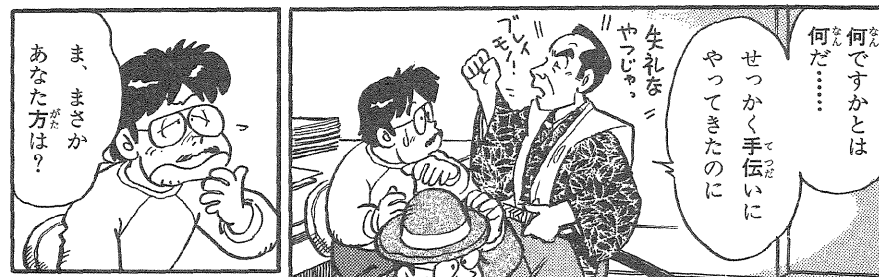
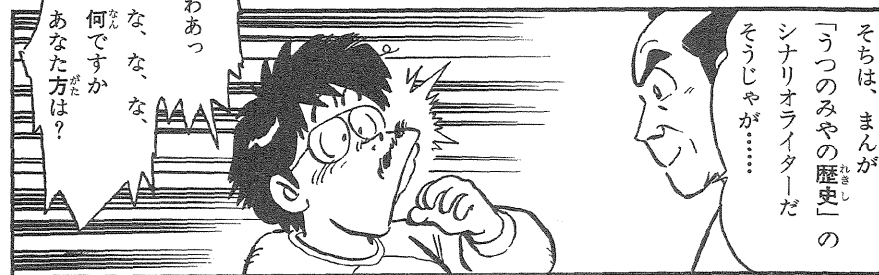
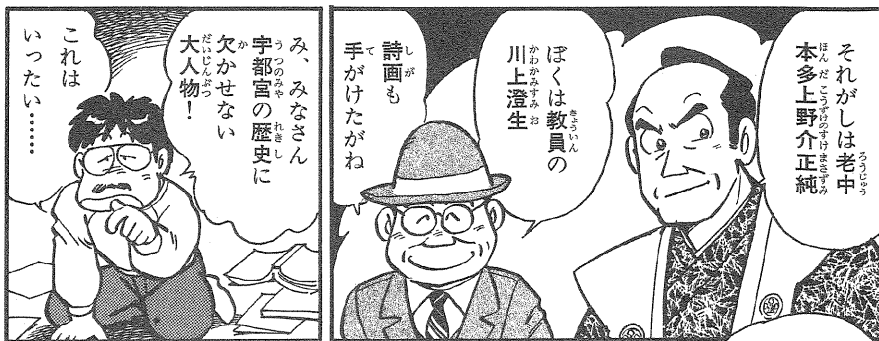
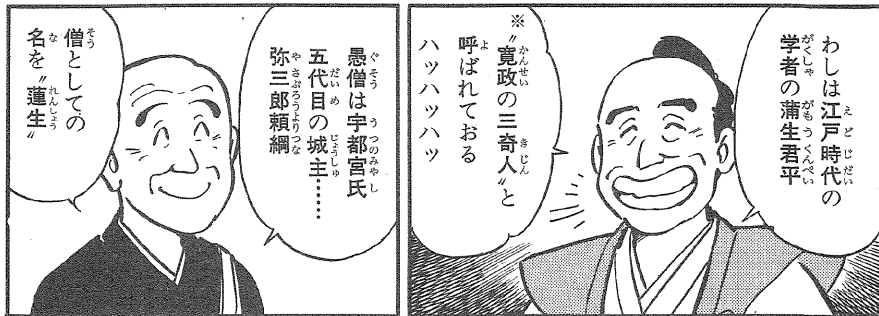
平和な時代にこそ  
思い起こせ！  
二度と  
このような  
戦争の  
悲劇をくり返す  
ようなことが  
あつてはならん！



おお……  
わしの整備した  
城下町が

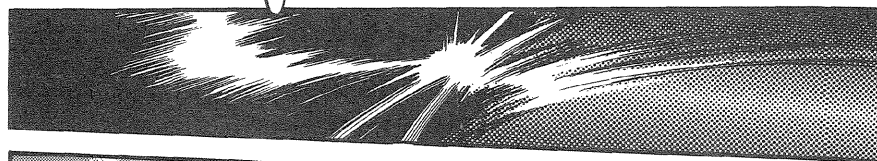
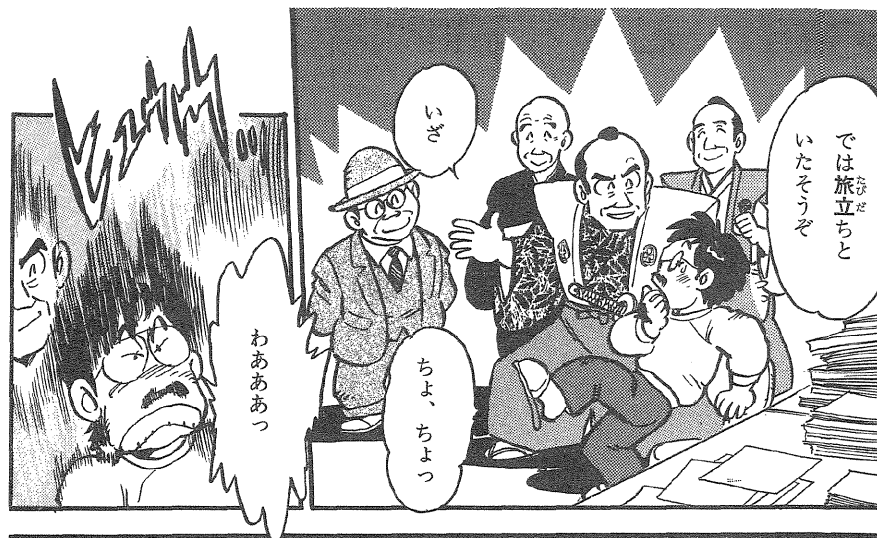
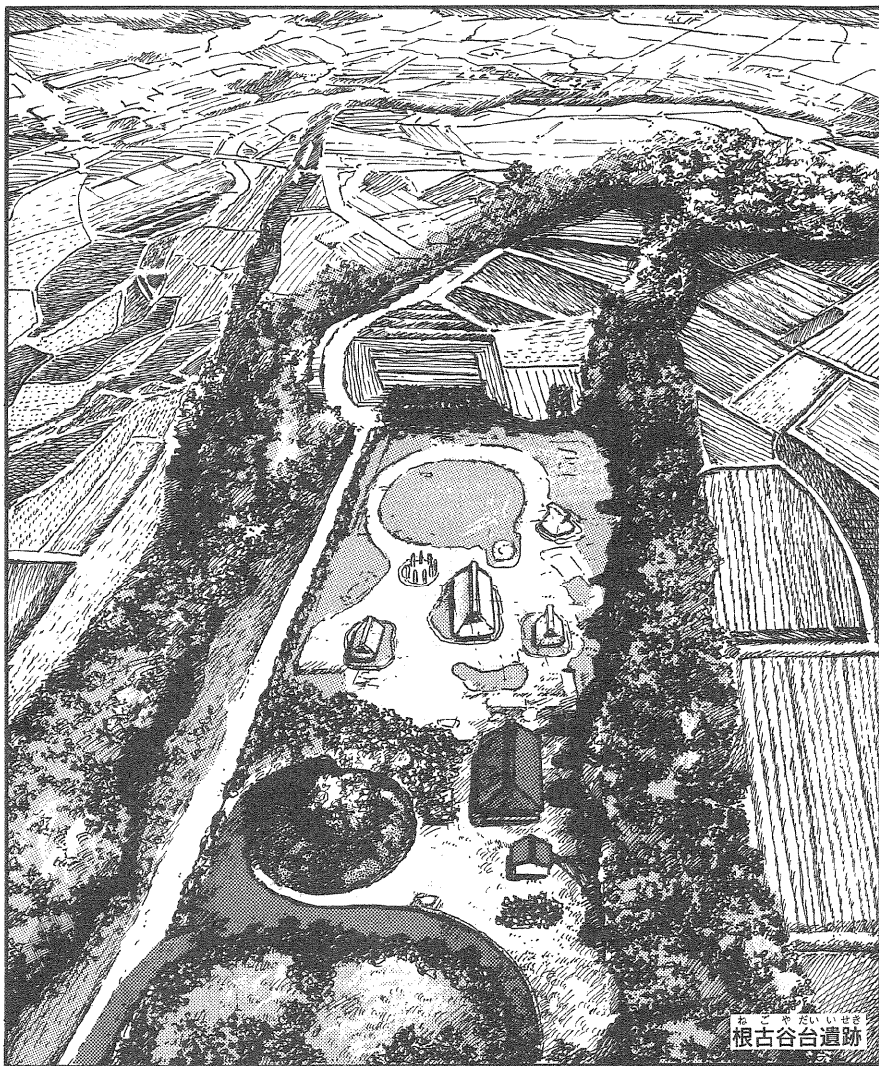


燃えている……  
わが宇都宮家が  
築き上げた  
宇都宮が燃えて  
いる……！！  
狂っている……  
どうして人と人が  
殺しあわなければ  
ならないのか！



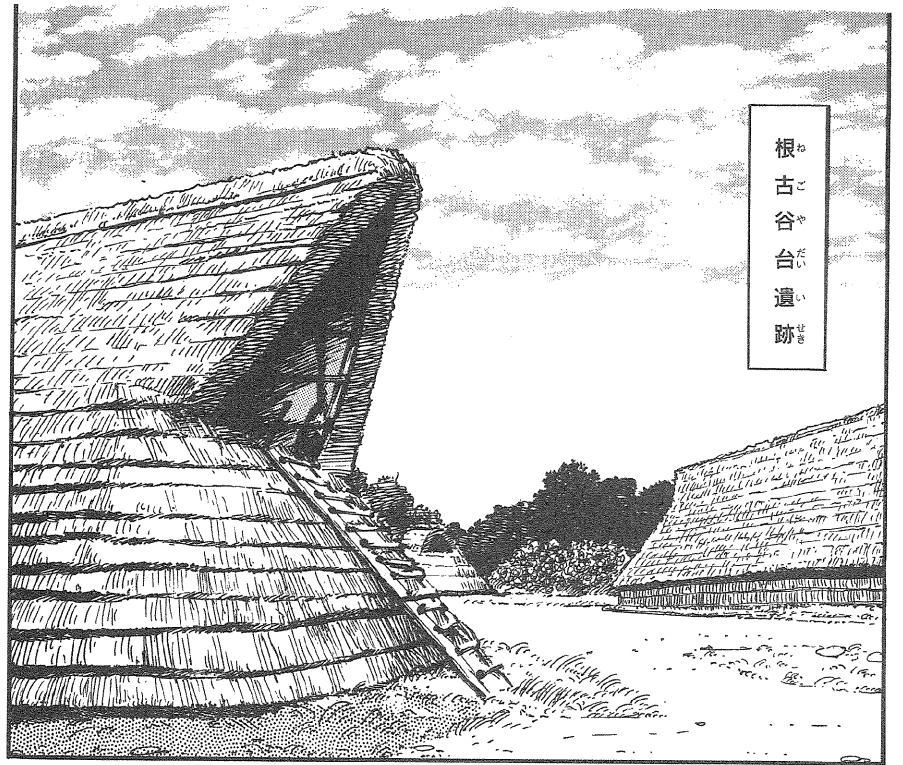
※寛政の三奇人…蒲生君平、林子平、高山彦九郎、3人の学者達

だい しょう こ だい  
第一章・古 代





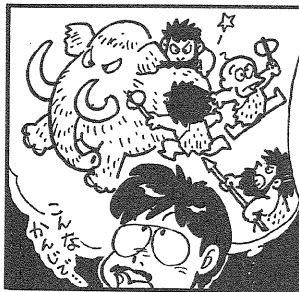
根古谷台遺跡



どうじゃ  
これが縄文時代の  
関東最大級と  
いわれる  
根古谷台遺跡じゃ

ははあ  
すごいもん  
ですねえ

原始時代の  
イメージでは…



みくびつちや  
いかんよ

彼らはもつと  
平和的で文化的  
だったのじゃ



しかーし！  
蒲生さん

わたしの記憶が  
正しければ  
あなたは確か  
江戸時代  
末期の人！

ヒッポーン

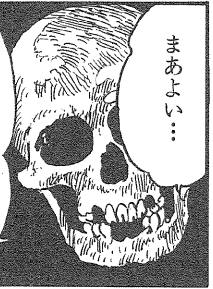
しかし、わしは  
こうした遺跡とは  
無縁では  
ないのじゃよ

だからこそ  
古代のガイド役を  
ひきうけたのだ



そりやまた  
どうして？

わしが  
天皇陵の記録  
※山陵志を刊行  
したことを  
知らぬのか！



まあよい…

じつはな…この遺跡は  
縄文人の生きた文化  
であると同時に  
死者の文化でも  
あるのじゃ！



死者の文化？

そのとおり！  
彼らは  
死者たちと一緒に  
この集落に住んで  
いたのじゃよ。

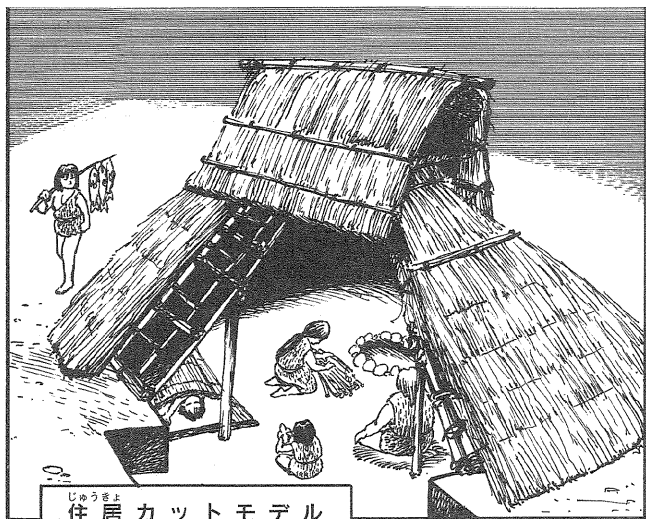


じゃあ、  
この遺跡は  
墓地でもあるって  
わけですか？



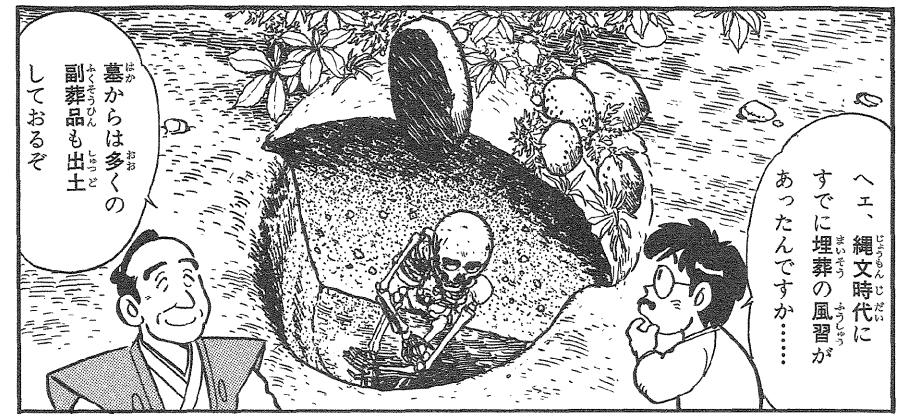
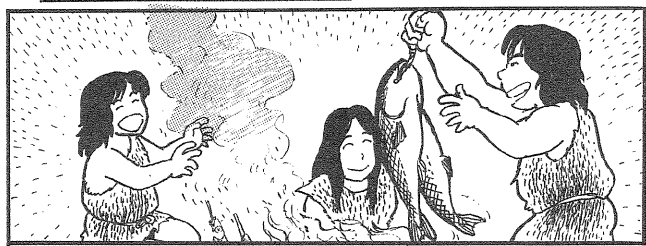
そう…  
集落の中心には  
約六〇メートルの  
円形の広場があり  
そこから約三〇〇基もの  
墓穴が発見  
されておる

※山陵志：一八〇八（文化五）年に刊行した近畿地方の天皇や皇族陵の記録で、ここで君平は前方後円という用語を使う



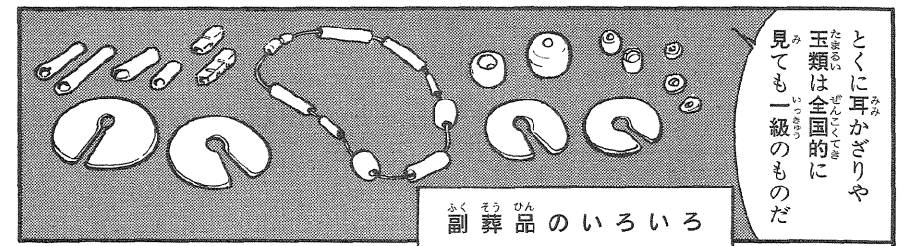
じゅうぎよ 住居 カットモデル

うーん、なるほど  
居住スペースにも  
工夫をこらして  
快適なライフスタイルを  
エンジョイしてんだな



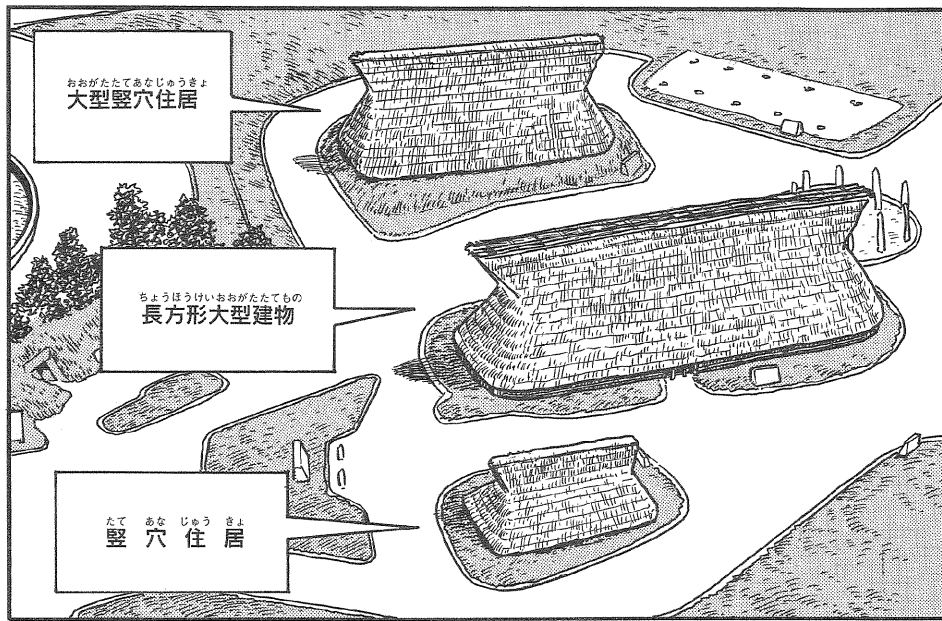
墓からは多くの  
副葬品も出土  
しておるぞ

へエ、縄文時代に  
すでに埋葬の風習が  
あったんですか……



ふく そう ひん 副葬品のいろいろ

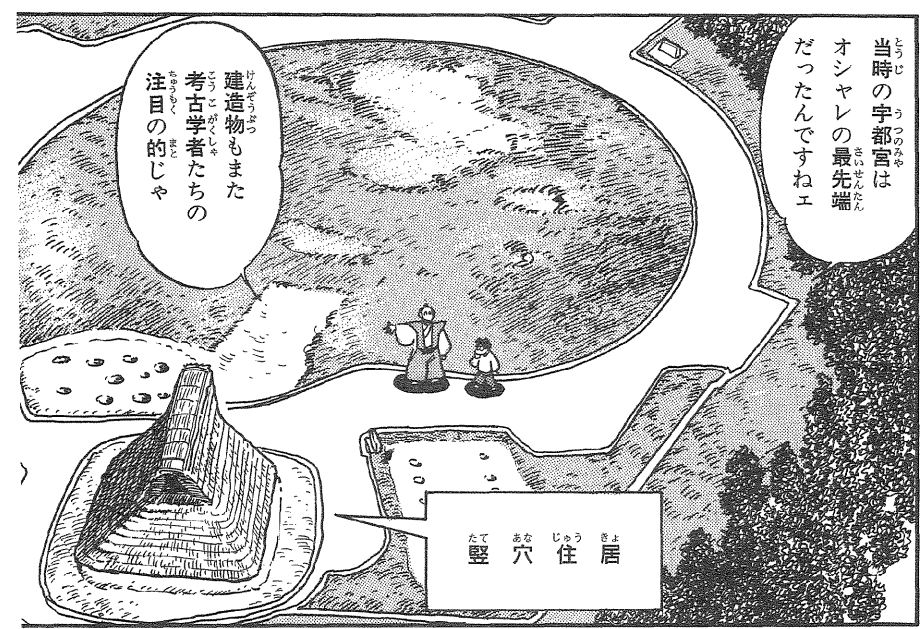
とくに耳かざりや  
玉類は全国的に  
見ても一級のものだ



おおがたてあなじゅうぎよ 大型竪穴住居

ちようほうけいおおがたてもの 長方形大型建物

たて あな じゅう きよ 竪穴住居



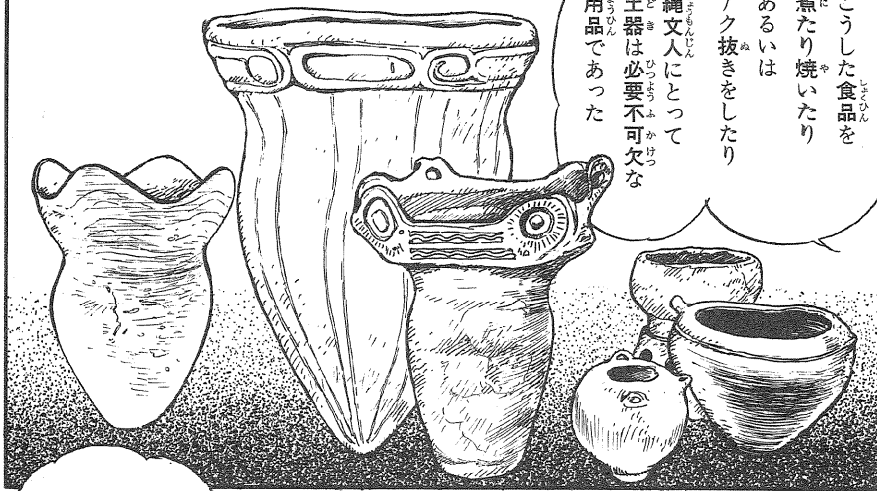
建造物もまた  
考古学者たちの  
注目の的じゃ

当時の宇都宮は  
オシャレの最先端  
だったんですねエ

たて あな じゅう きよ 竪穴住居

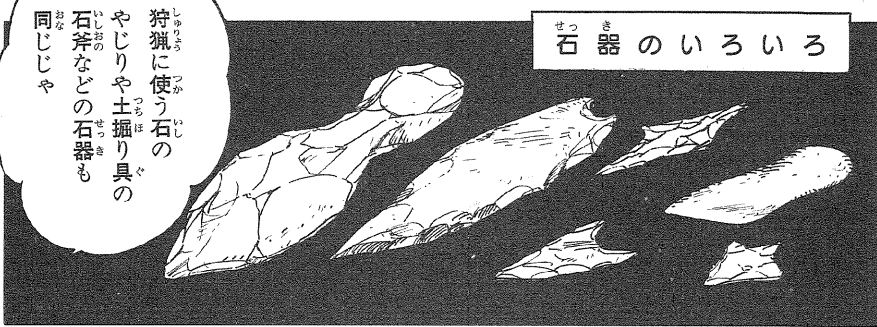


縄文式土器のいろいろ



こうした食品を煮たり焼いたりあるいはアク抜きをしたり縄文人にとって土器は必要不可欠な用品であった

石器のいろいろ



狩猟に使う石のやじりや土掘り具の石斧などの石器も同じじゃ

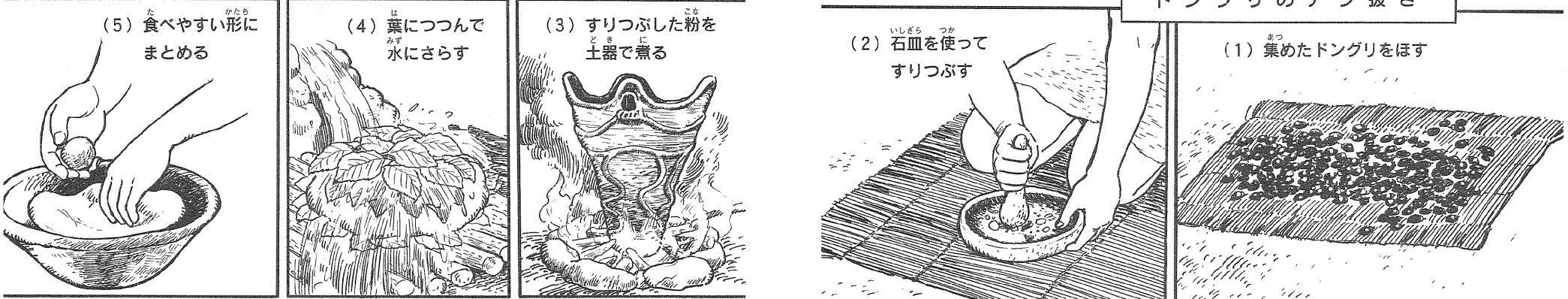
縄文人の食料のいろいろ



ちよつとその食文化をみてみよう

彼らの生活は現代人が考えるよりはるかに文化的で健康的だったのじゃ

ドングリのアク抜き



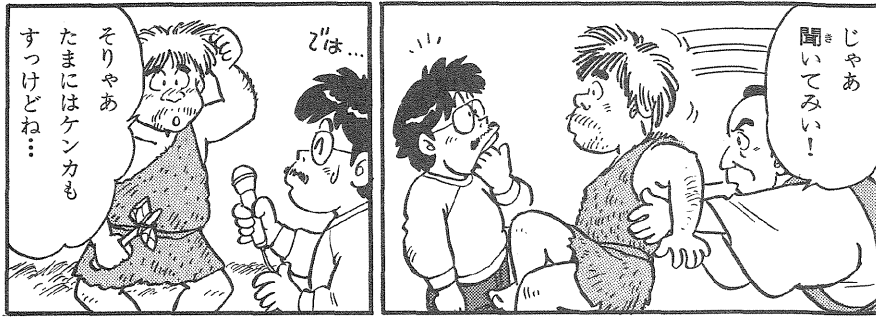
(5) 食べやすい形にまとめる

(4) 葉につつんで水にさらす

(3) すりつぶした粉を土器で煮る

(2) 石皿を使ってすりつぶす

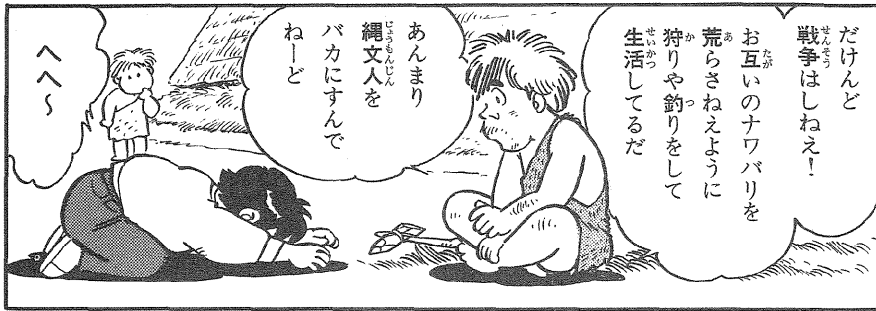
(1) 集めたドングリをほす



そりゃあ  
たまにはケンカも  
すつけどね…

ごは…

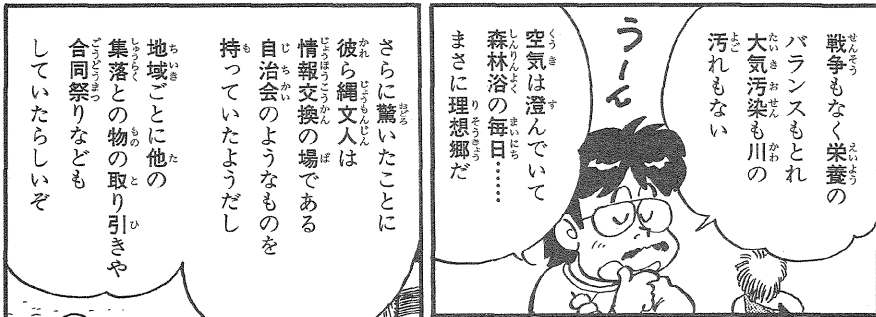
じゃあ  
聞いてみい!



だげんと  
戦争はしねえ!  
お互いのナワバリを  
荒らさねえように  
狩りや釣りをして  
生活してるだ

あんまり  
縄文人を  
バカにすんで  
ねーと

へへ

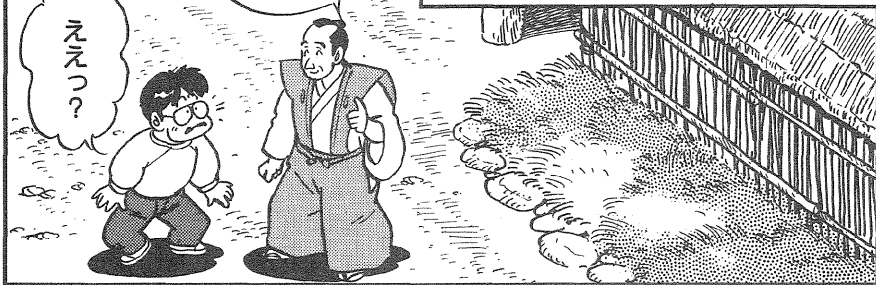


戦争もなく栄養の  
バランスもこれ  
大気汚染も川の  
汚れもない

うーん  
空気は澄んでいて  
森林浴の毎日…  
まさに理想郷だ

さらに驚いたことに  
彼ら縄文人は  
情報交換の場である  
自治会のようなものを  
持っていたようだし

地域ごとに他の  
集落との物の取り引きや  
合同祭りなども  
していたらしいぞ



ええっ?



すばらしい!  
じつにすばらしい  
縄文人はぼくらの  
想像をはるかに超えた  
知恵の民族だった  
わけですね!



ちよ…ちよっと  
待って下さいよ

それほどの  
民族ならば  
他のムラ・部族との  
争いもけっこう  
起きていた  
はずですよ

酒もつくって  
いたらしいぞ

へーっ  
こりゃビールの  
おとど

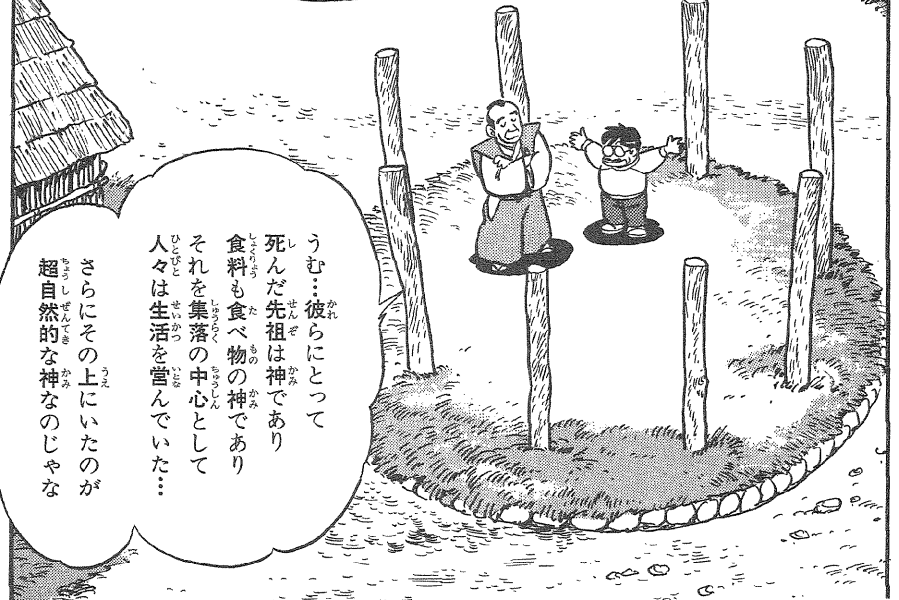


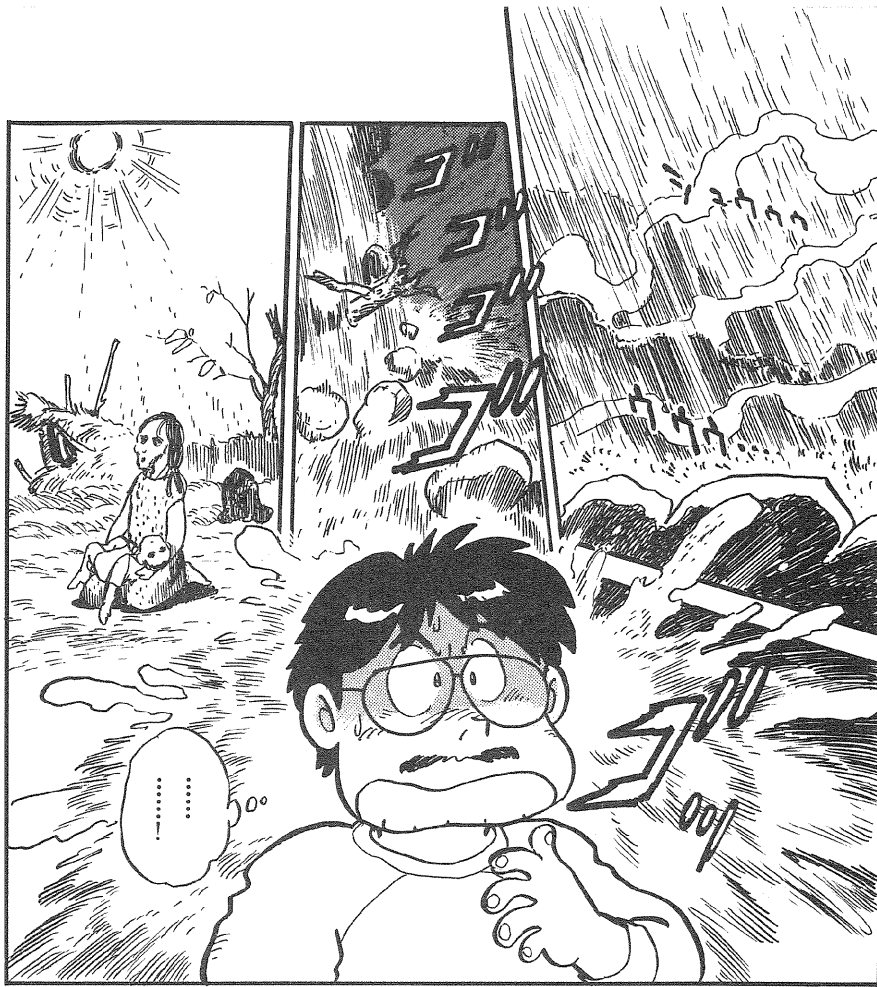
えーっ  
ホントにイ?

ましてや  
宇都宮市内の  
遺跡からは  
争いの跡すら  
見つかっておらん

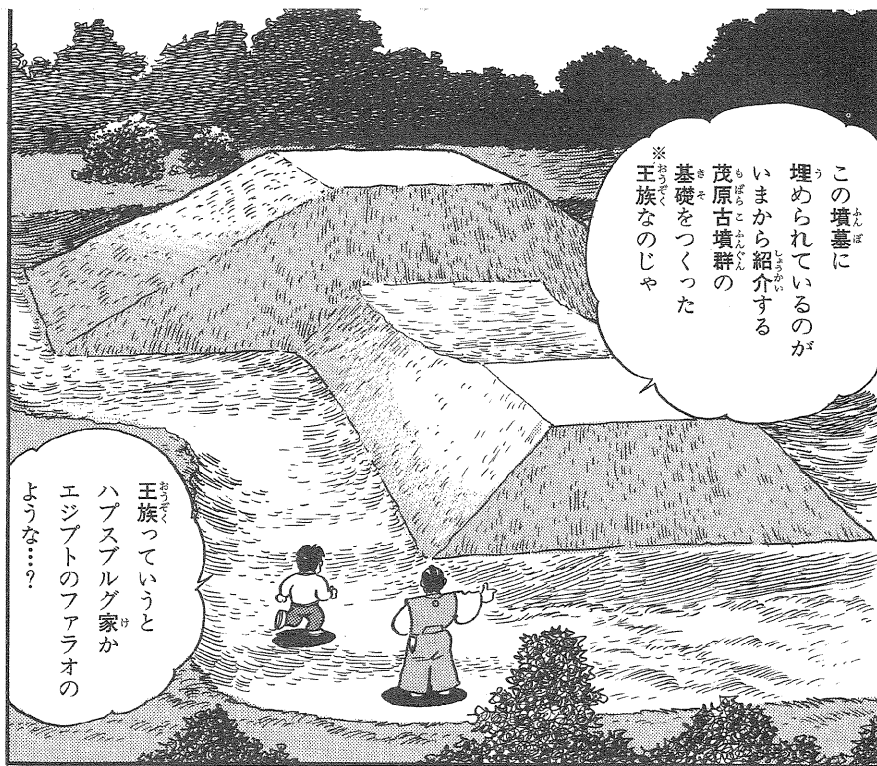
いや…それが  
米作りが中心だった  
弥生時代に比べると  
鎌も小さいし  
防衛用の環濠集落も  
ほとんど発見されて  
いない…

※環濠集落…住居のまわりに溝をめぐらせた集落で、溝は外敵から守るためにつくられた









この墳墓に埋められているのが、いまから紹介する茂原古墳群の基礎をつくった※王族なのじゃ

王族っていうとハプスブルグ家がエジプトのファラオのような…?



いや、正確にいうなら部族長というか…中小企業の社長というか…

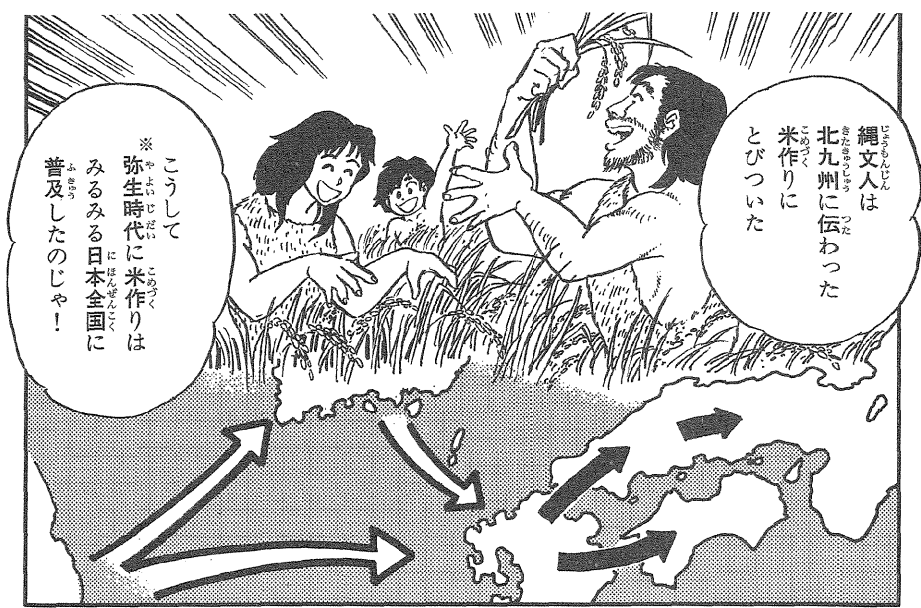
と、いつても、当時は現代から比べると人口が極端に少ない

古墳時代に小さくても自分たちの国家文化を持つという事は画期的なことだった



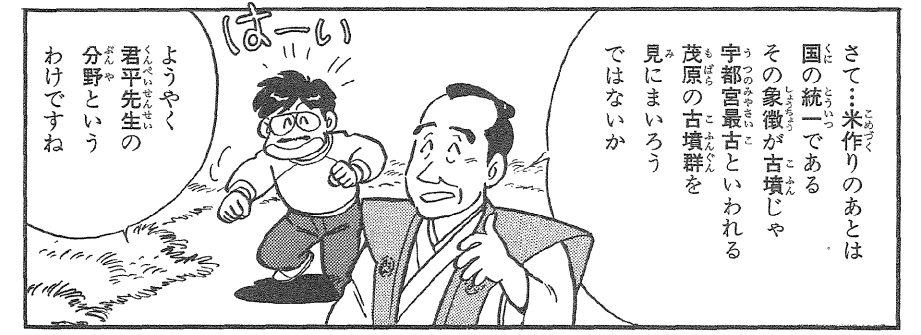
この王族を仮に河内王族と称しておこう……この王族は弥生時代の農耕を中心とした部族とは少し毛色が変わっておってな

毛色がちがうという外国人…?

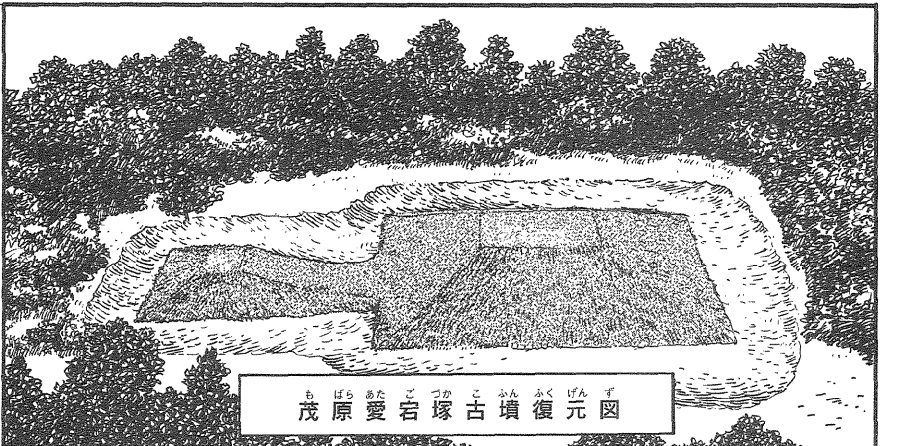


縄文人は北九州に伝わった米作りにとびついた

※こうして弥生時代に米作りはみるみる日本全国に普及したのじゃ!



さて…米作りのあとは國の統一であるその象徴が古墳じゃ宇都宮最古といわれる茂原の古墳群を見にまいろうではないか

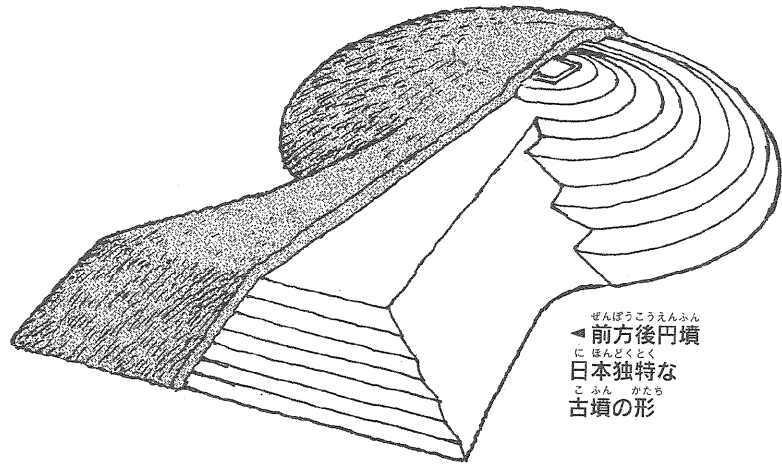


茂原愛宕塚古墳復元図

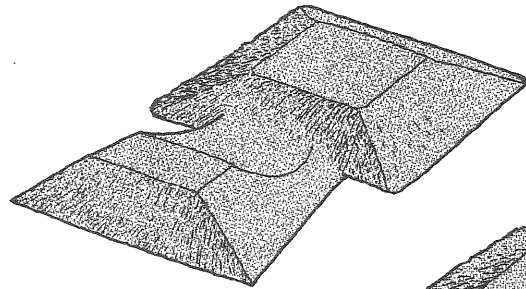
※弥生時代…稲作が始まり、青銅器・鉄器が普及した時代。紀元前三世紀から紀元三世紀中頃まで



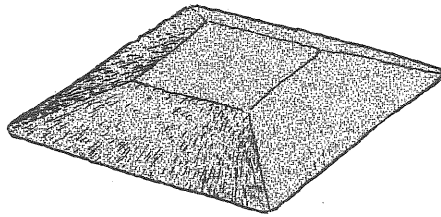
古墳の形と造られた時代



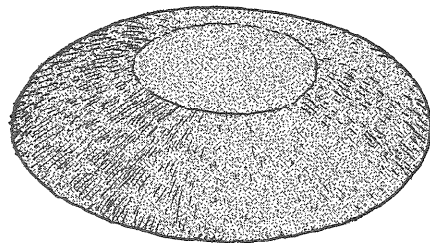
前方後円墳  
日本独特な古墳の形



前方後方墳  
栃木県では古い時代に多く見られる形



方墳  
古墳時代の始めと終わりに見られる形



円墳  
古墳の大部分を占める形



よくそんな古い型の生活で王族が形成できましたねエ

米作りもあまりさかんでなく縄文的な伝統を継承した王族であつたと

関西方面によく見られる環濠集落や方形周溝墓もみられず

※方形周溝墓：周囲を四角の溝で囲んだお墓。弥生時代から出現する。本市では古墳時代のものが発見されている



そこじゃ！

おそらくこの王族は東海や南関東の王族とは系統を異にした部族であつたのじゃろう  
だからこそ独自の文化を築くことができたといえるのではないだろうか！

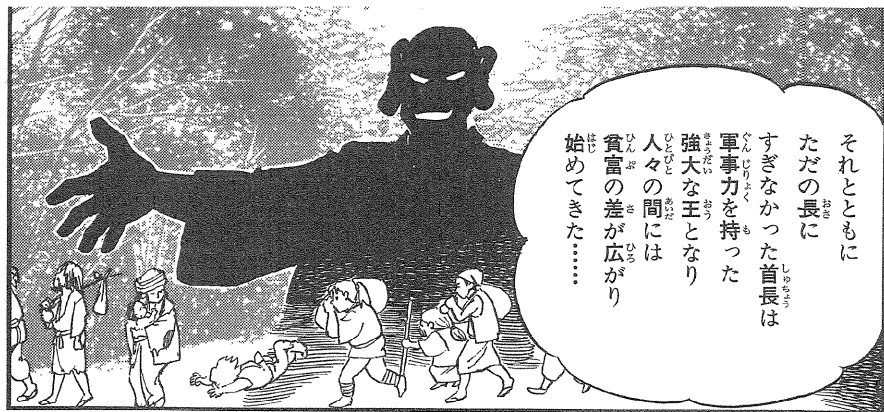


とにかく河内王族は古い！

前方後方墳という形からみても茂原古墳群は

下野国最古の古墳那須郡小川町の駒形大塚古墳と同じ時代、四世紀中頃の築造物なのじゃ！

茂原大日塚古墳



それとともに  
ただの長に  
すぎなかつた首長は  
軍事力を持った  
強大な王となり  
人々の間には  
貧富の差が広がり  
始めてきた……



鏡 獣 神 帝 文 画

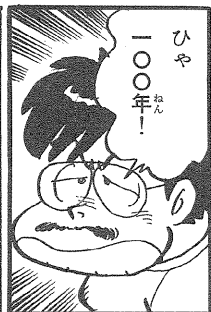
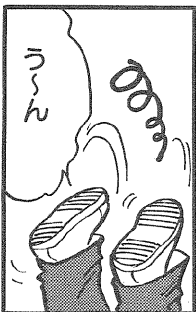


いよいよ  
身分制度の  
きざしが……  
さよう



これは  
大和政権に  
無言の証明じゃ

茂原古墳群の次の世代  
宇都宮市雀宮の  
牛塚古墳からは  
日本に二三面しか  
ないとされる  
鏡が出土している



古墳はこのあと  
何世紀ぐらいた  
造られたのですか？

ひや  
一〇〇年！

ほう一〇〇年！  
七世紀前後までじゃ

うん

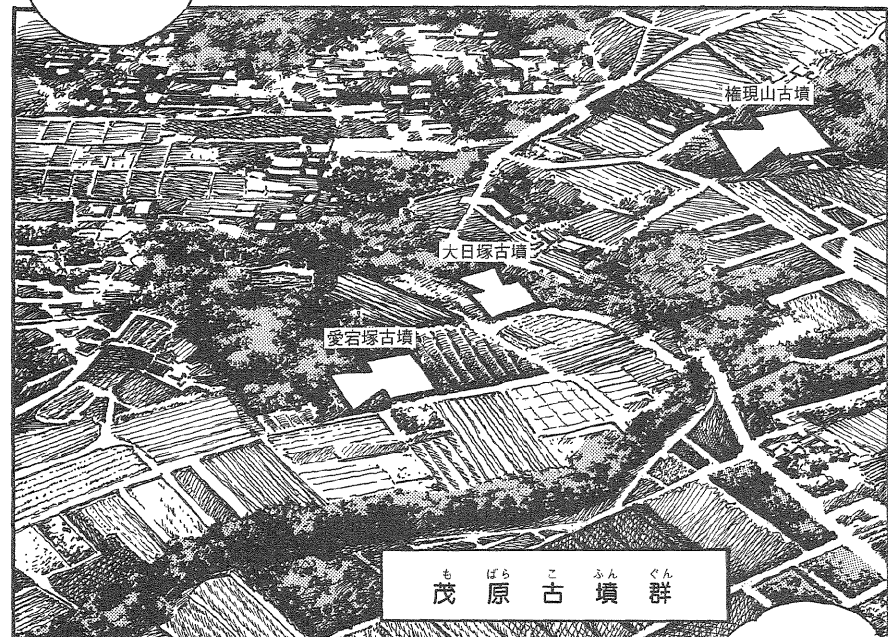


首長の力は  
絶対だったの  
ですか？

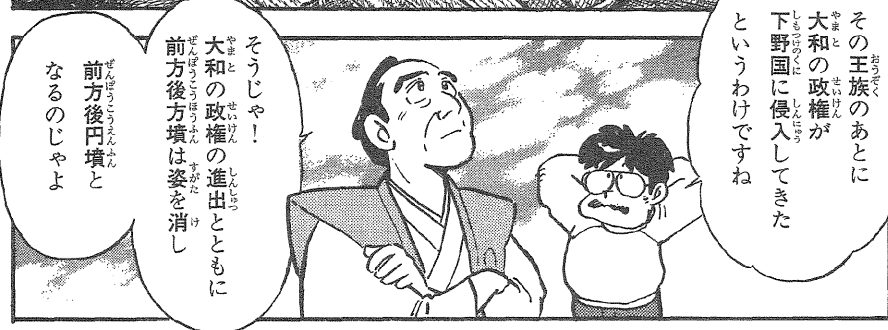
いや

独裁者ではない……  
集落の長  
あるいは祭りのときの  
神王ぐらゐの役目だった  
という者もある

この王族が築いたのが  
茂原古墳群の  
大日塚、愛宕塚、権現山  
古墳なのじゃ！

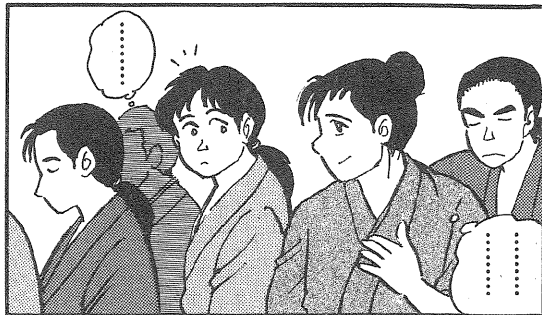


群 墳 古 原 茂



その王族のあとに  
大和の政権が  
下野國に侵入してきた  
というわけですね

そうじゃ！  
大和の政権の進出とともに  
前方後方墳は姿を消し  
前方後円墳と  
なるのじゃよ



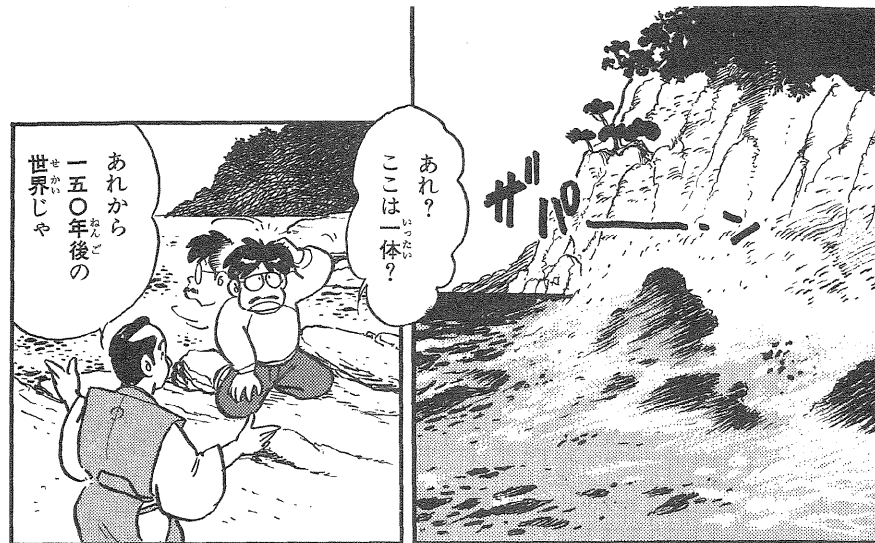
国々の防人ごとひ船乗りて  
別るを見ればいと為方無し

（防人の出身地が同じであっても  
数が多いために別々の船に  
乗せられたのであろう  
しかも分乗した同郷の仲間と  
一度別れてしまおう  
任地は必ずしも同じでは  
なかった）



こうして旅立つ  
防人たちを見ると  
なんだか律令制に  
ハラがたちますね

歴史はあやまちと  
失敗をくり返しつつ  
お主たちの時代に  
たどりついた……  
その祖先の  
足跡を知ることが  
このマンガの目的  
ではないか



あれから  
一五〇年後の  
世界じゃ

あれ？  
ここは一体？



中央では  
大宝律令が  
制定され  
平城京に  
政府が移されて  
間もない頃だ

ははア  
……  
ということは  
奈良時代！

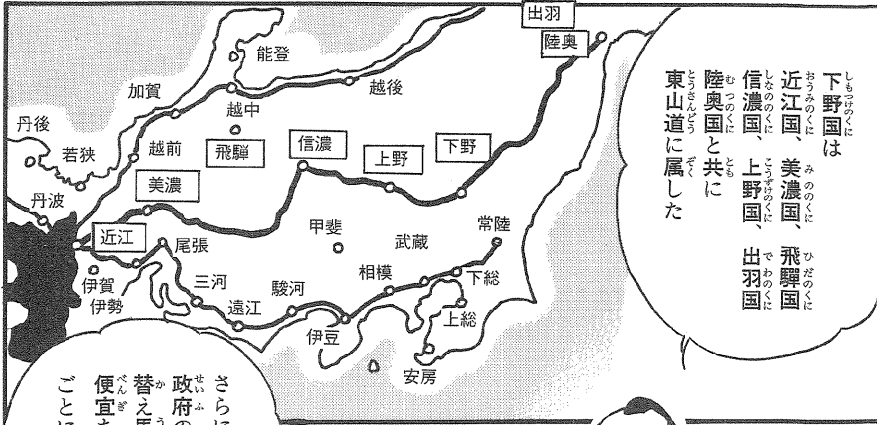


うむ……  
先生  
あれは？

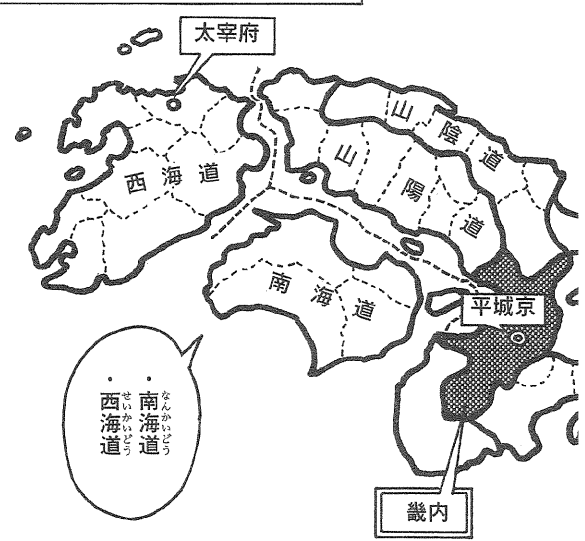
下野国で召集され  
筑紫（九州）へ向かう  
防人の兵士たちの  
ようじゃな



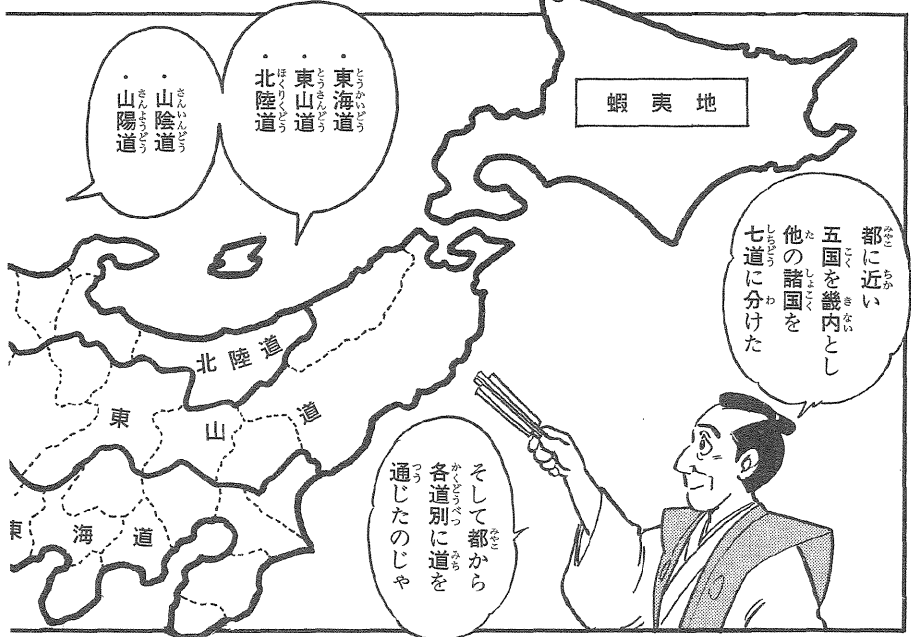
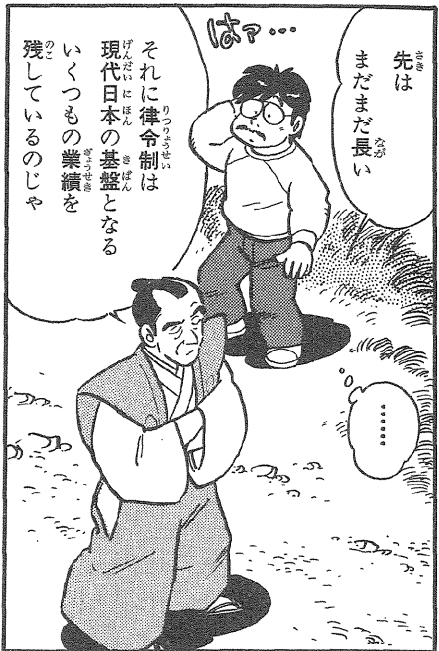
?!



八世紀の行政区分



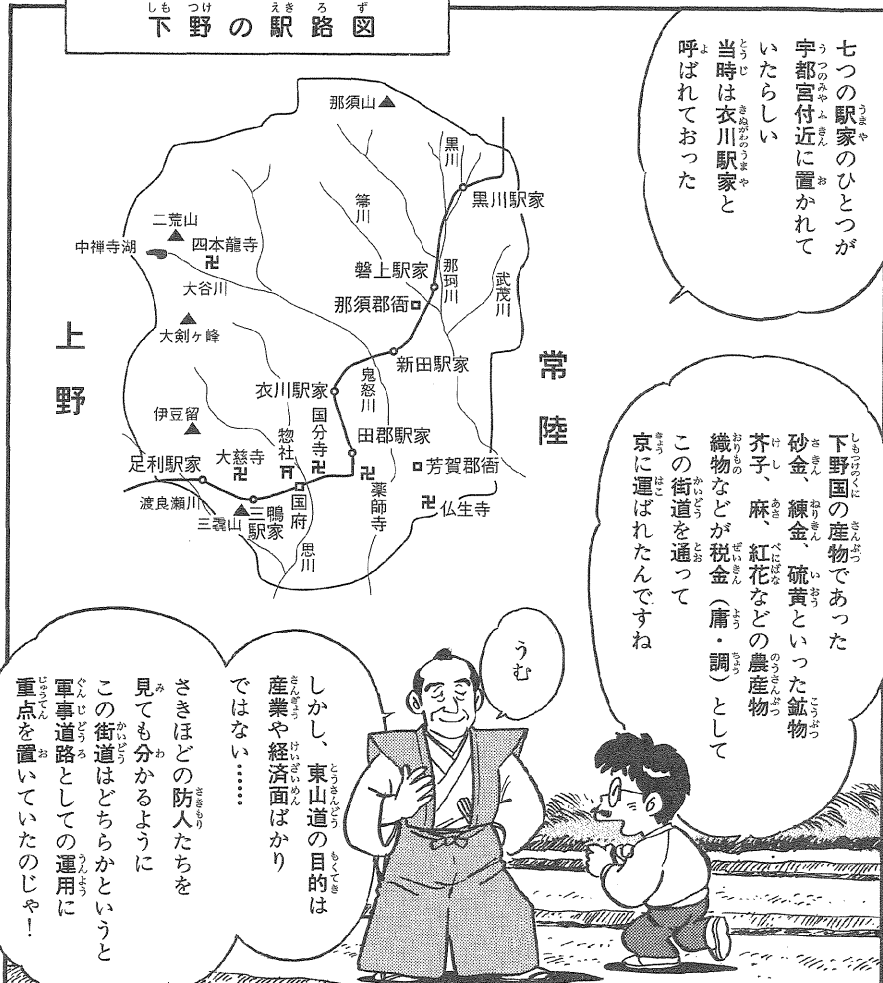
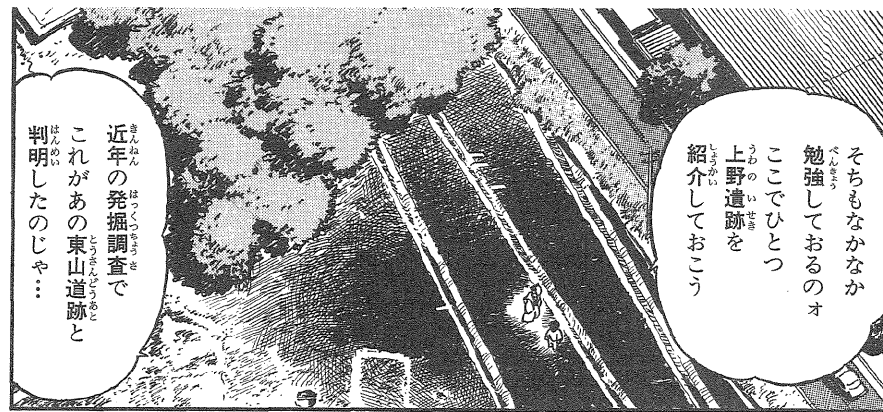
律令制の整備される以前の本県域には下毛野国と那須国があったが七世紀後半には下毛野国に統合され八世紀はじめには下野国と改められた



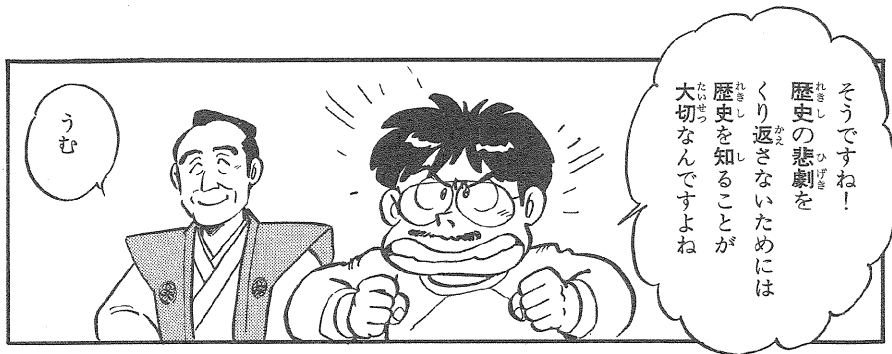




※蝦夷…東北地方にいた律令政府に従わない人達

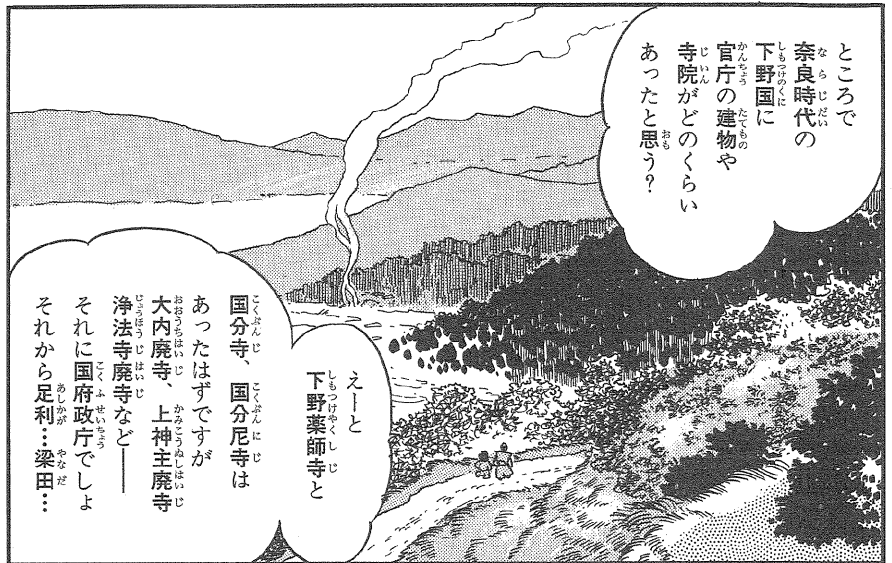






そうですね！  
歴史の悲劇を  
くり返さないためには  
歴史を知ることが  
大切なんですよ

うむ



ところで  
奈良時代の  
下野国に  
官庁の建物や  
寺院などのくらい  
あったと思う？

えーと  
下野薬師寺と  
国分寺、国分尼寺は  
あったはずですが  
大内廃寺、上神主席寺  
浄法寺廃寺など—  
それに国府政庁でしょ  
それから足利…梁田…



阿蘇…都賀、寒川、河内、  
芳賀、塩谷、那須など各郡の  
郡の役所…そんなところかな

ほお…、少し  
見直したぞ

では、そのうち  
日本三戒壇のひとつ  
下野薬師寺や国分寺の  
屋根をふいた瓦が  
この水道山で造られたのは  
知っておるかな？



こうした農村の苦しみをなくそうと  
律令政府は三世一身の法(七三三)や  
「墾田永年私財法」(七四三)を發布し  
農民の権利の改善を図ったが  
農民の苦しみはいっこうにおさまらず  
「続日本紀」には七七一(宝龜三)年に  
下野国の農民八七〇人が  
陸奥国(東北地方)に逃亡したとの  
記事が残っている



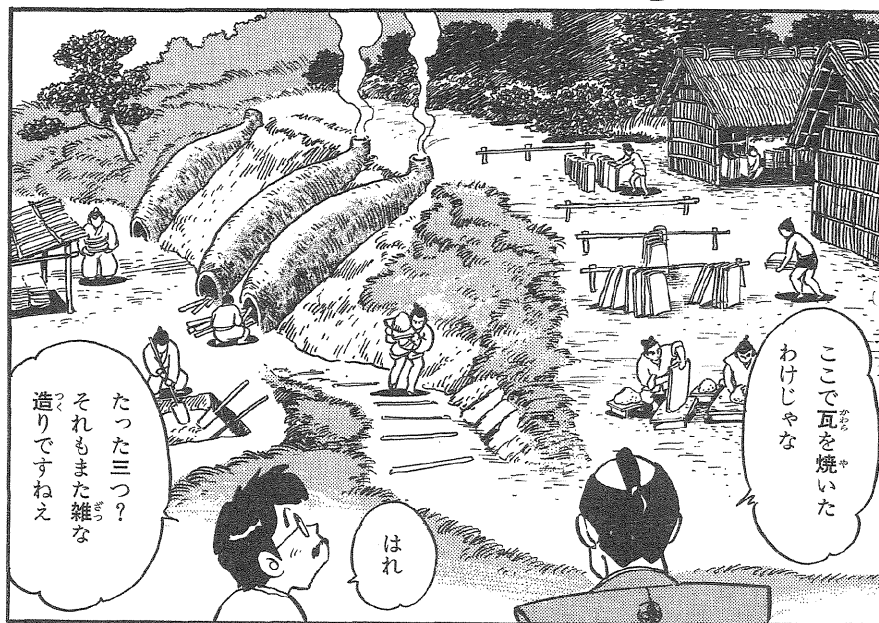
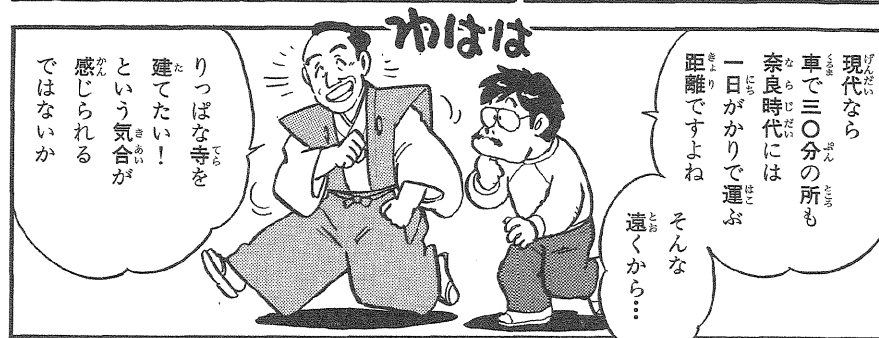
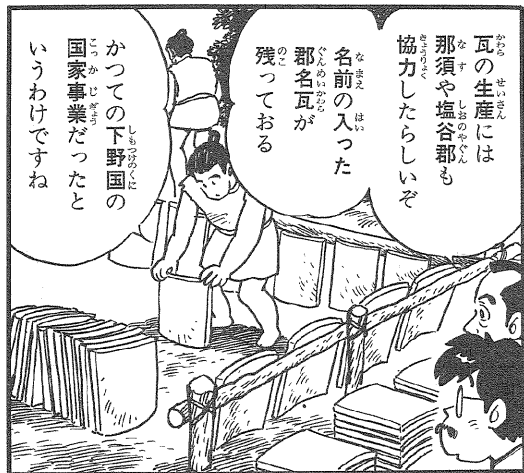
なんだか  
胸が痛くなって  
きましたよ

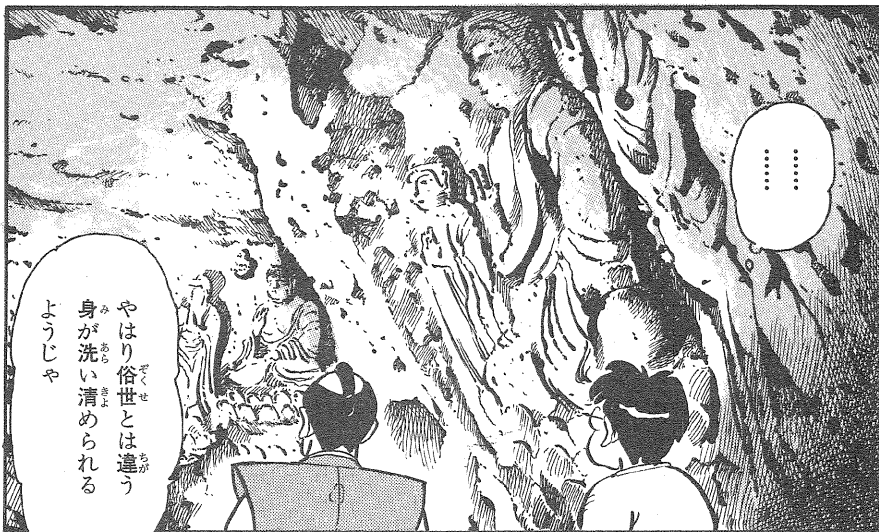
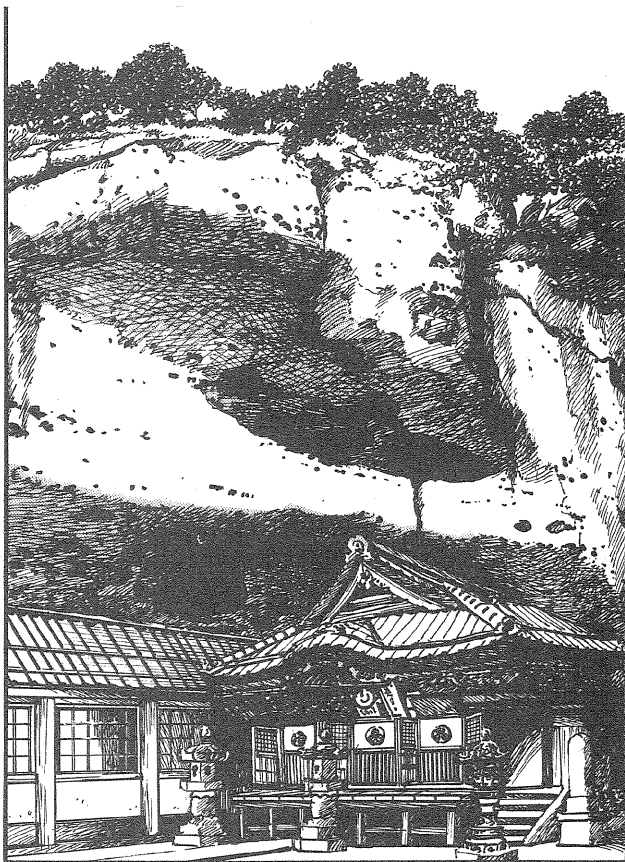
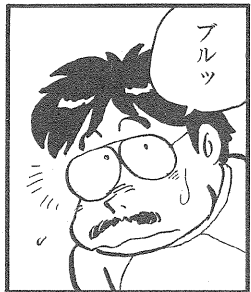
歴史を知る  
ということ

多くの無名の人々の  
悲しい魂の叫びを  
知るといふこと  
なのかもしれない…

そのことを  
これからの子供たちに  
伝えるのが  
われわれの使命では  
ないだろうか？

すい どう やま や かわら  
水道山で焼かれた瓦









この章の終わりに  
ふさわしいとは  
思わんかね……